

※情報共有メールは、プラチナサポートの特典となっております。プラチナサポート加盟店以外への共有、流用等は禁止されております。

※配信当時の内容のため、現状の内容と異なる場合もございます。予めご了承ください。

プラチナサポート情報共有メール

No.	701	配信日	2026/7/20	ジャンル	商品知識
テーマ	ダイヤモンド				

突然ですが、皆さんは「ダイヤモンド」と聞くとどんなイメージを持ちますか？硬い宝石、永遠の輝きといった言葉が浮かぶかと思います。ですが、ダイヤモンドにも意外な弱点があることをご存知でしょうか？

今回は、そんなダイヤモンドの知識や弱点について共有します。

1. ダイヤモンドとは

- ・地球上で唯一「単一の元素（炭素：C）」のみで構成されている宝石

炭素の純度は約 99.95%。残り 0.05%の微量元素が色を変えます。

マントルに引き込まれた炭素が、長い年月を経て不純物を除き結晶化。

- ・地球上の天然物質で最高の硬度

鉱物や宝石の「引っかき傷に対する強さ（硬さ）」を示す 10 段階の指標をモース硬度といいます。硬度が高いものほど数字が大きくなっていきますがその中でもダイヤモンドは 10 段階 10 という最高の硬度を持っています。

そのため、ダイヤモンドをカットする際は、ダイヤモンドの粉末を付着させた回転刃を使用します。



地球の奥深く（地上から約 150～250 キロ）でダイヤモンドの結晶ができると言われています。その中、サイズや内包がないことなどの条件がすべて揃っている確率は、何百万分の一、何千万分の一と言われています。さらに、人間の手によって「1 ミクロンの狂いもなくカット（3EX）」を含めるとさらに確率は下がります。

2. 高価になりやすい特徴

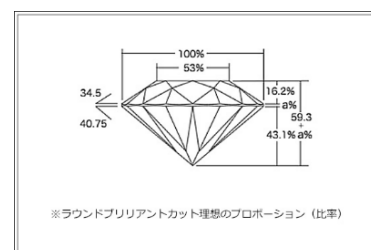
- ・4C のバランスで評価が変わる

ダイヤモンドは

「4C が 1 つだけ S 評価、他はすべて E 評価」のダイヤよりも、すべてが「B 評価」のダイヤの方が、市場では高価になりやすくなります。

- ・カラット、カラー評価

ダイヤモンドの価値は 4C によって決まるところが大きいです。カラットが大きくなると、カラーの粗が目立ちやすくなるという特性があります。



3. ダイヤモンドの意外な知識と査定時の取扱いについて

- ・水を弾き、油を好む

ダイヤモンドには、水を強く弾く一方で、油に非常に馴染みやすいという珍しい性質があります。

そのため、査定前に布でのクリーニングすることによって査定額が変わる可能性があります。

- ・世界一硬いけれど、ハンマーで叩くと粉々になる

ダイヤモンドにおいて地球上で最高の硬さを誇ります。しかし、割れにくさはそれほど高くありません。

水晶と同等と言われており、一か所に強い衝撃が加わるとひびが入ってしまう可能性があります。

査定時の取り扱い時も落とさないこと。複数点ある場合は、ダイヤ同士で当たらないように注意が必要です。